

台風19号 6ダム緊急放流したが…

台風19号の豪雨で6ダムが緊急放流した



台風19号の豪雨により、東日本の6カ所のダムで水位が限界に近づき、「緊急放流」が行われた。ダムの決壊を防ぐ最終手段だが、下流の増水につながる恐れもあり、管理者は難しい判断を迫られた。2018年の西日本豪雨の際には、緊急放流したダムの下流で浸水が発生。これを受け専門家からは降雨前の「事前放流」によって水位を減らしておいたべきとの提言もあったが、4カ所では実施していなかった。(2面参照)

決壊と渇水 リスク判断難しく

台風19号の豪雨で6ダムが緊急放流した。背景にはダムには住民の生活用水などとして、一定の水位を確保しておくる必要に迫られている事情がある。国土交通省によると今回の緊急放流による大規模な被害は確認されていないが、ダム運用の課題が映し出された形だ。

緊急放流は流入量と同量を下流に流す措置。台風が上陸した12日夜、13日朝に城山ダム(神奈川県)、塩原ダム(福島県)、高柴ダム(福島県)などが行われた。事前放流したのは美和ダムと高柴ダムの2カ所だった。

国土交通省によるとダム建設時に建設費用を負担する自治体や電力会社

生活用水や農業用水とし

て利用するため最低限の水位を確保するよう取り

た。一方で、豪雨によるダム

の決壊は、多くの場合

で想定されるリスク

である。しかし、

決壊の可能性は

必ずしも低い

といふ。一方で、

決壊のリスクは

必ずしも低い

といふ。

決壊のリスクは</